

## 店頭から 「こんにちば」

第84回

# 泥棒や火事にも気づけない夜が怖い… 補聴器をつけて不安が解消される

いつもバス停で、声をかける人。しばらく姿が見えないと、心配になります。  
自宅の窓が閉まっていて、人の気配がないと、なおさらですね。

## 耳が不自由になると心も…

実は、心配していた70歳代の女性が来店されました。「お元気でしたか」と尋ねると、話し始めたものです。

今は、ご主人が脳梗塞を患い、施設に入所中で、子どもたちは東京に住んでいるので、独り暮らしといます。

「小さいころ、中耳炎になり、片耳がほとんど聞こえない」ともいうのでした。

最近では、突発性難聴で、正常だった耳のほうも聞こえなくなり、病院にかかったものの、「年齢によるものだから、治療はない」といわれたそうです。

そうして、補聴器を勧められたといます。

実は、夜がとても怖くなったそうです。「泥棒が入ってきてても気がつかないし、隣が火事になっても分からないから」とのこと。

「窓の閉め忘れにも、気がつかずに不安です」と。

そこで、警備保障会社の装置を設置したそうです。「具合が悪

いときも、ボタン1つで、警備員の方が駆けつけてくれるようになったので、安心ですね」とも。

さて、補聴器をつけるようにして、聞こえるようになったものの、女性はまだしも、男性の低い声は実に聞き取りにくいそうです。

しかし、補聴器の効果は絶大で、聞こえないことから来る不安はなくなったといます。以前のようにまた、バスで出かけられることができ、笑みを浮かべるまでに。

## 音の聴こえない音楽会

現在では、マイクで拾った音を、ただ増幅するだけでない補聴器になっているはずです。

バックのノイズを消しつつ、人の、特に男性の声の周波数帯域の増幅は、難しいことではないと思います。

ただし、補聴器の大きさに、そうした機能を詰め込むと、高価になってしまうのは、仕方がないことなのでしょう。

高性能になった補聴器は、スマートフォンの画面から、リモコンのアプリを使い、音量や音質を

設定します。

静かな場所、人混みの中、電車内など、TPOに応じたモードで、補聴器を動作させると、今まで聞こえづらかった音も、快適に聞き取れるようになるのだとか。

とはいえ、あるコンサート会場では、イヤホンの使用も禁止しており、からだから外して、バッグにしまわせたそうです。

補聴器をただのイヤホンと間違われ、コンサートの主催者に説明しても、納得してもらえず、仕方なく、補聴器を外してコンサートを聴いたとか。

せっかく補聴器を使って、楽曲を楽しもうとしていたのにもかかわらずです。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表  
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ  
宮川季士先生



## プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「かぜなどに、注意をしてください」